

東京都知的財産総合センター 成果事例のご紹介⑩(全11回)

情報サービスの特許取得で 大切なセカンド・オピニオン^(※)のアドバイス

株式会社キー・プランニング

株式会社キー・プランニングは、有限会社として平成6年に設立された。社名には時代や物事のカギ(重要要素)を作り出したいとの理想が込められている。これまで公共団体などのシステム開発に携わり、受注実績は100件以上に上る。主力事業のシステムの受託開発を始め、コンサルタントなど業務内容は多岐にわたる。さらに「ケーゾク」のサービス開始を機に、受託開発に依存しない事業構造の構築を目指している。

代表：木下 雄一郎
所在地：東京都豊島区池袋2-48-8
 サワビル2F
業種：ソフト開発
資本金：1,500万円

受託開発事業は収益面で同社の主力事業だが、木下社長いわく、この受託開発は「仕事をとればどんどん売上が上がり、それが終わると売り上げがなくなることの繰り返し」とのことである。そこで収益の安定化に向けて、自社の技術を使った新たなサービスについて、さまざまなアイデアを温めてきた。その中でビジネスに結びついたのが、目標達成に向けた行動の継続を支援するシステム「Kzoku(ケーゾク)」である。これは、ダイエットの挫折を防ぐシステムとして注目を浴びた。例えば、ダイエットの記録の更新を怠ると、友人などにダイエットの応援を促すメールが送信されるといったサービスがある。

同社は、このサービスを事業化するにあたって、公的機関による支援を利用した。まず東京都の「経営革新計画」で承認を受けた。次に平成19年5月、公社の「事業可能性評価事業」に申請、事業可能性ありとの評価を受けた。その際、出願を検討していた国際特許について公社に相談したことがきっかけになり、東京都知的財産総合センターとの付き合いが本格的に始まった。この時木下社長は自ら特許に関する勉強し、手続きは弁理士に依頼していたが、セカンド・オピニオンとして同センターを利用した。社長によると、同センター担当相談員の意見を聞いたことが、「情報収集や出願時のポイントチェックでも非常に

役立った」という。

情報サービス分野では、どれだけユニークな製品やサービスを開発しても、ものづくりに比べ開発投資がかからないこともあって、権利化を通じて守っていかなければ他の企業にまねされる確率が高い。木下社長は新たな特許取得も検討中で、再度、センターと相談するという。現在は、将来の海外進出を考え、センターの協力も得て外国出願を行い、グローバルな権利化を進めている。

企業の声

現在は、受託開発が売上の多くを占めていますが、今後はサービス事業をもっと広げていきたいと考えています。その中核となるのが「ケーゾク」で、事業の柱の一つとして育成していきたいと思っています。ダイエットの支援という内容から、生活習慣の問題や企業の研修・学習などの支援に水平展開していくことが可能だと思います。

※より良い決定をするために、専門的な知識を持つ第三者に意見を聞くこと。

当センターを利用し、経営に生かしている企業の取り組みを紹介している「成果事例集」を発行しています。



知財のよろず相談を専門家集団(相談員・弁理士・弁護士)がサポート!

東京都知的財産総合センターでは、中小企業の皆さまの知的財産に関するご相談を承っております

【無料・予約制】 TEL 03-3832-3656

会社トップページ → メニュー一覧 知的財産